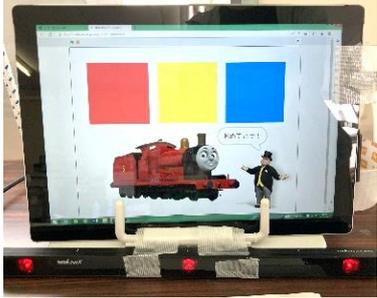
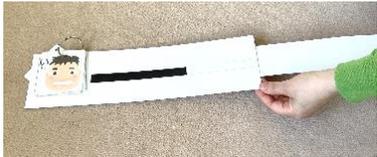
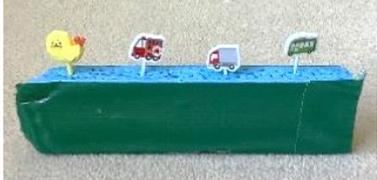
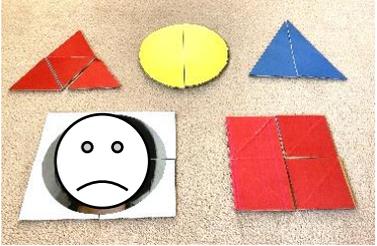
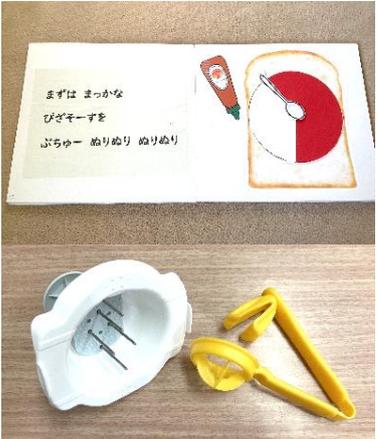


実践教材・教具紹介一覧表

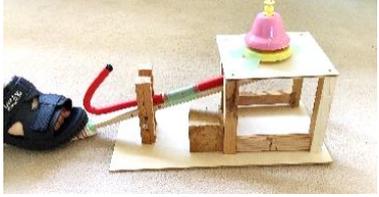
愛媛県立しげのぶ特別支援学校

番号	教材・教具名	紹介メモ
①	<p>視線入力教材</p> 	<p>【小学部】 プログラミングソフト「Scratch (スクラッチ)」を使って作成し、色のマッチングや○×記号の意味付けを目的として、使用した。 『きかんしゃトーマス』のキャラクターの車体の色と、同じ色を選択すると「○」が表示され「ピンポン」と音が鳴り、違う色を選択すると「×」が表示され「ブー」と音が鳴る。キャラクターをクリックすると、問題が変わる。(問題の変更は、教員が操作する。) 視線入力だけでなく、画面をタッチしたり、マウスでクリックしたりして操作できる。Scratch を使用しているため、インターネットに接続できる環境であれば、どの端末でも作動する。また、キャラクターは、児童の実態に合わせて、好きな物をテーマにして作り変えることができる。</p>
②	<p>声出し教材</p> 	<p>【小学部】 長音を出すことを視覚的、触覚的に伝えるために、使用した。声を出しながらカードを引き出して使用する。口形模倣できるようにしているため、文字の理解が難しい児童にも、鏡を見ながら行うと分かりやすい。</p>
③	<p>紙粘土スライム</p> 	<p>【小学部】 絵本『こねてのぼして』のお話遊びで使用した。絵本の内容に合わせて、こねたり伸ばしたりつついたりする。絵本の登場人物と同じように、腕まくりをするところから始め、生地のような物に見立てたスライムを実際に触りながら、物語の内容を楽しめる。 紙粘土スライムは、100 円均一ショップで購入した軽量粘土「エンジェルクレイ」と重曹水で作成した。ホウ砂を使わないため、比較的安全性が高いと思われる。</p>
④	<p>ピック抜き</p> 	<p>【小学部】 指先で物をつまむ活動で使用した。100 円均一ショップで購入したポリスチレンフォームに弁当用ピックを刺した状態で、児童に提示する。児童は、弁当用ピックを、親指と人差し指でつまんで抜く。持ち手部分が平らなものや凹凸のあるものなど、様々な弁当用ピックが使用できる。また、抜くだけでなく、刺す活動にも使用できる。</p>

<p>⑤</p>	<p>顔・形パズル</p> 	<p>【小学部】 絵や形を認識するための学習で使用した。</p> <p>(1)顔パズル パズルを完成させるためには、手に持ったピースを回転させながら正しい向きや場所を探索することが必要である。その練習のために、児童がよく知っている教師や友達の顔を使ったパズルを作成した。児童は、目、口、眼鏡などの特徴的な部分から合わせていき、自分の知っている人物の顔が完成すると、とても喜んだ。何度も挑戦するうちに、自然にピースを回転させることができるようになった。</p> <p>(2)形パズル 円、三角形、四角形を、それぞれ1/2にカットしたピースを作り、同じ大きさで色が違う色板の上に重ねながら、形を作る。随時、「何の形を作るの?」「どんな形ができた?」と言葉掛けをすることで、形の名称にも意識を向けるようにした。また、ピースを1/2から1/4へと徐々に細かく分ける、複数の顔や形のピースを混ぜるなど、レベルアップすることもできる。</p>
<p>⑥</p>	<p>歯磨き指導教材</p> 	<p>【小学部】 自分の顔写真に歯のイラストを付けた教材を作成し、歯磨きの学習に、使用した。焼肉やアイスクリームなど、児童が好きな食べ物を用意し、「御飯を食べると歯に虫歯菌がやってくる」ことを、確認した。実際に、歯にホワイトボードマーカーで汚れを付けることで、児童が進んで歯ブラシの模型を動かして、汚れを落とそうとした。</p>
<p>⑦</p>	<p>ピザトーストを作ろう (手作り大型絵本・調理器具)</p>  <p>↑ミニトマトカッター(右) 指ガード(左)</p>	<p>【小学部】 児童が栽培し収穫したミニトマトとピーマンを使って、ピザトースト作りをした際に、使用した。</p> <p>(1)手作り大型絵本 調理前に、ピザトーストの調理工程をストーリー仕立てにした手作りの大型絵本を使って、調理工程を確認した。児童が調理工程を覚えて次の工程を言う姿などが、見られた。</p> <p>(2)調理器具 ミニトマトカッターとスライサーを使って、野菜を切る活動を行った。児童の安全に配慮して、スライサーを使用する際は指ガードを使うことで、児童が一人で活動した。夏休みには調理器具を家庭に貸し出し、家庭でも調理を行ってもらった。</p>

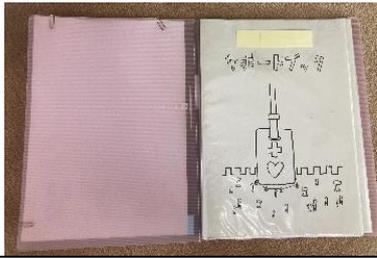
<p>⑧</p>	<p>電動得点発表装置</p> 	<p>【小学部】 運動会の得点発表の際に使用した。スイッチを押すと、ひもが巻き取られ、得点を隠している紙が持ち上がる仕組みになっている。</p>
<p>⑨</p>	<p>キラキラフリフリ</p> 	<p>【小学部】 腕や手首を大きく動かすことが難しい児童が、製作活動で使用した。穴が開いており、児童が腕や手首を動かすと、中に入れたラメやスパンコール、色砂が、画用紙などの上に落ちるようになっている。穴の数や位置が異なっており、「手首を返す」「振る」など、個に応じた身体の課題に取り組みながら、製作活動を行った。</p>
<p>⑩</p>	<p>Google ドキュメント</p> 	<p>【中学部】 書く活動や生徒同士が意見を出し合う活動などで、使用した。 プリントやノートなどに手書きする場合は、訂正するときだけでなく、文章の途中に追加したいときに消さなくてもよい部分も消しゴムで消さなければならず、負担が大きい。それに比べて Google ドキュメントだと、訂正が容易に行えるため、活動に集中しやすい。 また、生徒同士でデータを共有することで、一つのファイルをそれぞれの端末で開き、同時に編集することができる。そのため、友達の意見を見ながら、自分の考えを打ち込むことができる。</p>
<p>⑪</p>	<p>朝の会司会スイッチ</p> 	<p>【中学部】 パワーポイントの図形の動作設定や音声の挿入機能を使ってスライドを作成し、朝の会の司会で、使用した。画面に触れると、あらかじめ録音した司会の音声が出るようになっているため、発語のない生徒も朝の会の司会が行える。タッチペンやマウス、スイッチなどを活用することで、様々な身体の状態に応じて使用できる。また、朝の会だけでなく、自己紹介や調べ学習の発表など、ほかの場面にも応用ができる。</p>
<p>⑫</p>	<p>太鼓</p> 	<p>【中学部】 ばちを保持し、太鼓を鳴らすことが難しい生徒が、少しの力で演奏できるように作成し、演奏で使用した。ゴムを指に引っ掛けて弾くことで、ピンポン玉が太鼓の面に当たり、音が鳴る仕組みになっている。指が痛くないよう、マスク用のゴムひもを使用したり、少しの力で音が鳴るよう、軽いピンポン玉やビーズを使用したりした。</p>

<p>⑬</p>	<p>ベルハーモニー補助具</p> 	<p>【中学部】 スズキ楽器の、机などの上に置きキャップをたたいて演奏する卓上ハンドベルである「ベルハーモニー(デスクタイプ)」の演奏で、使用した。補助具を使用することで、小さな力でも和音を演奏することができる。</p>
<p>⑭</p>	<p>トングでトントン</p> 	<p>【中学部】 スポンジを持つことが難しい生徒が、着色するために使用した。スポンジをトングの片方に付け、先や柄を手で触れると、トングのばねを利用して着色することができる。</p>
<p>⑮</p>	<p>誰でもスリーポイントシューター！</p> 	<p>【中学部】 バスケットでシュートをする際に使用した。生徒の実態に応じて、S字フックに掛ける網の升の位置や、S字フックそのものの取り付け位置を変えることで、ゴールリングの高さを変え、様々な生徒がシュートに挑戦した。風船にビニールテープを巻くと、わずかに重みが出てコントロールしやすい。ゴールリングを目掛けて発射台を操作したり、頭上に手を伸ばしてボールを運び入れる動きを練習したりした。シュートを決めてリングネットを揺らす爽快感や、楽しさを感じながら取り組んだ。</p>
<p>⑯</p>	<p>ろうそく倒しちゃだめよゲーム</p> 	<p>【高等部】 生活単元学習で、誕生会やクリスマス会の際に使用した。円形の台紙の上にろうそくに見立てた棒を立て、その周りに玉入れで使用する紅白の球を、棒が倒れないようにある程度の高さまで置く。「棒を倒してはだめ」というルールで、順番に球を取っていく。「指でつまむ」「腕で抱き寄せる」「洗濯ばさみで球を挟み、その洗濯ばさみを引っ張る」など、生徒の実態に応じて取り方を変えた。</p>
<p>⑰</p>	<p>バーカッション</p> 	<p>【高等部】 使用音楽の授業で使用した。スズキ楽器の、鍵盤を指で押すだけで音が鳴る打楽器シリーズであるキーボードスタイルパーカッション「BARcussion (バーカッション)」。指一本で、いろいろな音を鳴らすことができる。</p>

<p>⑱</p>	<p>足で鳴らせるベルハーモニー</p> 	<p>【高等部】 ベルハーモニーを足の指で鳴らすために使用した。ベルハーモニーの内側に100円均一ショップで購入したソフトワイヤーを差し込み、クラッパー（振り子）に当たるよう調整した。てこの原理を用いることで、より軽い力でベルを鳴らすことができる。</p>
<p>⑲</p>	<p>漢字の成り立ち（プレゼンテーション）</p> 	<p>【高等部】 漢字の構造に関する学習の導入で、漢字の成り立ちの動画を見た後に、使用した。プレゼンテーションを使って漢字の成り立ちについて復習した後、更に興味を持つよう生徒の名前に使われている漢字を使い、その成り立ちを、推理ゲームのようにして考えた。</p>
<p>⑳</p>	<p>何段編めたかな？</p> 	<p>【高等部】 リリアン編みは、連続した網目で筒状に編んでいくため区切りがなく、作業量を数値化するのが難しい。そこで、作業量を数値化するために、使用した。100円均一ショップで購入したリリアン編みの道具（毛糸 de リリアン）を使った。 毛糸を掛ける爪部分の1箇所を色を塗り、スタート地点とし、1周して色の着いた爪まで来たら1段完成であることが分かるようにした。また、その日に編む目標の段数をビーズの数で示し、1段編むごとにビーズを1個ずつ移動させることで、目標や成果を分かりやすく示せるようになった。</p>
<p>㉑</p>	<p>レジ補助具</p> 	<p>【高等部】 文化祭のバザーで、硬貨を指でつまむことが難しい生徒がお釣りを渡す際に、使用した。仕切りで分けられた硬貨を、指で前方へ滑らせることで下のトレイに落とし入れ、お釣りを渡すことが出来るようにした。</p>
<p>㉒</p>	<p>サポートブック（肢体不自由生徒）</p> 	<p>【高等部】 福祉サービス（放課後等デイサービス・ショートステイ）を利用するようになった生徒（寄宿舍生）のサポートブックを作成し、情報共有に使用した。本人と相談しながら寄宿舍での日常生活場面の写真を選び、食事やトイレ介助、入浴支援などの必要な情報をまとめた。 今後も、改訂しながら、生徒自身が、自分に必要なサポートを卒業までに説明できるように、活用したい。</p>

②3

サポートブック（病弱・身体虚弱生徒）



【高等部】

先天性心疾患のある生徒のサポートブックを作成し、情報共有に使用した。作成時には、生徒の得意とする絵や手書きの解説などを取り入れ、自分自身の疾病や配慮事項などについてまとめた。現場実習では、生徒がサポートブックを活用して、サポートをお願いしたいことなどを説明した。